

目次 前回 次回 略解

応用ベクトル解析

樋口さぶろお¹ 配布: 2007-05-07 Mon 更新: Time-stamp: "2007-05-13 Sun 13:19 JST hig"

4 復習と略解 – ベクトル場の線積分マークを計算しよう

quiz の採点と添削について quiz は 0,2,3,4 の 4 段階採点です. ReLS に入力した結果がメールで送られます.

‘× か’ は考え方の誤り, ‘× き’ は記号の使い方の誤り, ‘× け’ は計算の (単純な) 誤り を示しています.

今回の問題に即したコメント 1. で, $V(x(t), y(t)) = V(-t^3, t) = (2(y(t))^2, 3x(t)) = (-2(t)^2, 3(-t^3))$ に注意しよう. x, y を入れ替えるとかその手のルールではない. x のところに $x(t)$ を, y のところに $y(t)$ をいれるという自然な操作.

2. で, $s(t)$ は L から求めることはできません. $|\frac{dr}{dt}(t)|$ から定義にしたがって求めましょう.

3. では, s の範囲は t の範囲と $s(t)$ から決まるのでそれも表示しましょう.

1. $\frac{dr}{dt}(t) = (-3t^2, 1)$ を用いて,

$$\begin{aligned} \int_{C_1} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} &= \int_0^2 \mathbf{V}(\mathbf{r}(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) dt \\ &= \int_0^2 (3(t)^2, 2(-t^3)) \cdot (-3t^2, 1) dt \\ &= \int_0^2 (-9t^4 - 2t^3) dt = -\frac{328}{5}. \end{aligned}$$

2. $s(t) = \int_0^t |\frac{dr}{dt}(t')| dt' = \int_0^t \sqrt{10} dt' = \sqrt{10} \cdot t.$

3. $r_{\text{弧長}}(s) = \mathbf{r}(t(s)) = (2, 1) + (1, 3)\frac{1}{\sqrt{10}}s$ ($0 \leq s \leq 4\sqrt{10}$).

5 quiz – スカラー場の勾配ベクトル場を求めよう

1. ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (2x, x + y)$, パラメタ表示された曲線 $C : \mathbf{r}_C(t) = (-2, 1) + (1, -2)t$ ($0 \leq t \leq 2$) (始点 $(-2, 1)$, 終点 $(0, -3)$) を考える. 手順にしたがって

$$\int_C \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} ds \tag{5.1}$$

を求めよう. \mathbf{n} は進行方向右向き単位法線ベクトル.

¹Copyright ©2005-2007 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

2. 次のスカラー場の勾配 $\nabla f(\mathbf{r})$ を求めよう.

(a) $f(\mathbf{r}) = 2y^2 - x^3y^2$

(b) $f(\mathbf{r}) = |\mathbf{r}|^2 + y$

(c) $f(\mathbf{r}) = 1/|\mathbf{r}|$

今日の範囲に対応する教科書のお奨め問題

小高 問題 6.2(p.121), 章末問題 [6.1](∇f のみ, p.148).

スカラー場 f の等高線とベクトル場 ∇f

小林-高橋, ベクトル解析入門, 東京大学出版会 (2003) p.123, 図 6.5 より引用

pdf バージョンでは図は省略



<http://hig3.net>

目次 前回 次回 略解